

路面電車の未来を 一緒に考えましょう

市民議論を経て、平成17年に存続が決まった路面電車。現在、交通機関としてだけでなく、まちづくりへのさまざまな活用が期待されています。路面電車と札幌の未来について、皆さんも一緒に考えてみませんか。



スペイン・バルセロナ



フランス・ストラスブール

CHECK 01 路面電車の現状と課題

路面電車は、1日約2万人（年間730万人）が利用する重要な市民の足となっており、今後も運行を維持していく必要があります。しかし、平成20年度の経常収支が3,200万円の赤字となるなど経営状況は厳しく、老朽化した施設の更新も急務となっています。

→50年以上が経過した車両もあり、平成35年までに施設の更新費用として約58億円が必要



路線の延伸を行うことで、都心部の活性化や観光客の誘致、「環境首都・札幌」の実現など、将来を見据えたまちづくりへのさまざまな活用が期待できます。

■延伸地域は？

将来の需要見込みなどから、「都心」「創成川以東」「桑園」の3地域での延伸検討を進めます。

■延伸費用は？

一つの地域の延伸に約50億円の費用が掛かりますが、国の補助制度を活用することで、建設費の市の負担は1/3程度になります。

■収支の見通しは？

現状のまま路線を延伸しても安定した経営は困難ですが、「経営の効率化」「利用者負担の在り方」と合わせて検討することで、将来的には黒字化も見通せます。

H22年3月路面電車活用方針を策定
経営基盤の強化、まちづくりへの活用を図るため、市では「路線を延伸すべき」と考えています



これまでの議論の経緯

H17年
2月

存続が決定

乗客の減少による経営悪化や車両の老朽化などにより、平成13年から存続か廃止かを検討。市民議論を経て、存続を決定しました。

【存続のポイント】

- ①市民の存続の意向が強い
- ②人や環境に優しく、まちづくりに生かせる
- ③経営の効率化により収支改善も可能

H18年
9月

活用策の提言を受け取る

有識者などからなる会議で1年間議論され、市は「延伸する必要がある」との提言を受けました。提言の中では、路面電車を「まちや市民を元気にする道具」として活用する必要性が示されています。

H19年
7月

検討フレームまとまる

提言を踏まえて検討項目をまとめたほか、費用や収支について分析・検証を進め、平成21年度までに市の方針を策定することとしました。